

令和4年度第2回安城市スポーツ推進審議会 議事録

日 時	令和4年8月23日（火）午前11時～11時50分
場 所	東祥アリーナ安城 3階 第4会議室
出席委員	野村富雄委員、四ツ井初美委員、杉山恵子委員、香村直廣委員、藤野奈緒子委員、小森義史委員、園田直哉委員
欠席委員	鈴木俊貴委員、前田光成委員、石川恭委員
事務局出席者	教育長（石川）、生涯学習部長（加藤）、スポーツ課長（津口）、施設管理係長（岩井）、スポーツ振興係長（内藤）、スポーツ振興係主査（小木曾） 学校教育課長（稲留）
次 第	1 市民憲章唱和 2 あいさつ 3 議題 （1）第2次スポーツ振興計画改訂版（案）へのパブリックコメントによる意見募集結果について （2）第2次スポーツ振興計画改訂版（案）について 4 報告事項 （1）令和4年度事業計画の進捗状況について （2）令和5年度以降の休日の中学校部活動の地域移行について

1 市民憲章唱和

2 あいさつ

石川教育長、野村会長

3 議題

（1）第2次スポーツ振興計画改訂版（案）へのパブリックコメントによる意見募集結果について

【事務局説明】資料P1

【質疑応答】

（委員）

皆さんが計画を受け入れてくださり、大きな問題も無くてよかったと思う。

【全委員了承】

(2) 第2次スポーツ振興計画改訂版(案)について

【事務局説明】資料1及び2

【質疑応答】

(委員)

とてもよくまとまっていて見やすい資料で、いい内容だと個人的には思っている。

オリンピック自体がコロナの影響を受けたが、我々がそれをただのイベントにするのではなくて、その後も含めて、スポーツ振興に精神的な面で継承していくことをここできちっと見直していただけたことは本当に良かった。現場で皆さんが待ち望んでいるのは、やりたくてやれなかったスポーツを安全に効果的に楽しく今後やれるんだという希望であり、それが欲しい時期でもあるので、こういった改訂は本当に良かった。

また、中学校の部活動の運営支援について、これは今までなかったもので、子どもを持つ親世代と近い者にとっては現場が一番混乱していたところであって、これに対して今回の改訂に間に合って記述を入れていただいたことは、非常に大きな支えになる。

(委員)

「ささえる」スポーツの振興の中に中学校部活動の運営支援の記述を入れていただき、大変心強く感じている。

【全委員了承】

4 報告事項

(1) 令和4年度事業計画の進捗状況について

【事務局説明】資料P2～4

【質疑応答】なし

(2) 令和5年度以降の休日の中学校部活動の地域移行について

【事務局(学校教育課)説明】資料「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要」

【質疑応答】

(委員)

スポーツ推進委員としてバレーの教室をやっているが、教室で教えた小中学生が育って就職したりすると、指導をしに来てほしいと思ってもなかなか来てくれない。

また、今コロナで教室の参加者が少ないが、来年はもう少しコロナが落ち着いて地域の中学生も来てくれて、地域でこういう方々がずっと教室をやられているんだということを見てくれればいいと思う。

中学校の開放についても、部活動をやっていないと空きが生じるが、そこに指導者の方が来てくれてやれるといいと思う。体育館を確保することは大変で、場所の問題はある。

(委員)

今年の全中(水泳)は、宮城で50メートルを開催するところを、地震があつて会場が使えなくなって最初中止という話になったが、コロナで大会を開催しないことも今まであ

ったので今回は開催させたいということで、サブプール（25m）で開催した。我々にとって、そこまで子どもたちのために開催してもらったということは非常に大きい。

安城市に関しては、水泳部がある中学校が南中しかなく、雨が降ったらどうするのか、雷が鳴ったらどうするのかという問題があるので、もし水泳をしたいというのであれば、スポーツセンターを利用させていただき、指導者を派遣できればいいと思う。ただ、土日はスイミングスクールに通っている子たちがいるし、大会自体が土日に集中してしまうこともあるが。雨が降ってもできるように、施設を貸していただいて、我々指導者が行ってルールを教えながら、競泳だけではなく体力づくりの面でも協力ができればと思っている。土曜日の夜だったら、うちのプール（安城スイミング）も空いていれば来てくださいという形でも全然いいので、そういったことも市と考えながら一緒にやっていたら。

（委員）

まだ提言の段階でガイドラインすら出ていないので詳しい話が煮詰めにくいというのは分かったうえで、民間におろすということになると、財源はどうなるのか。例えば指導者の報酬や、場所の取り方のルールにしても、皆さんが期待しているのは「自分が使えるかどうか」だと思う。そうなったときに、施設利用の公平性のあり方だとか、報酬の財源はどこから出のかだとか、今まで中学校の中で先生方が工夫して子どもたちのために力を注いでくださっていたことが今回外部にわたるわけなので、そういったところをお伺いしたい。

（事務局）

財源の問題については提言の中にも出てくるが、今から新たに団体を立ち上げるというのはとても間に合わない状況なので、できれば今考えているのは、現在開設しているスポーツ団体やチームに中学生が出向いて仲間に入れていただくような形ができないかと考えている。新たな団体を立ち上げるとなると人材と場所と費用がかかるため、緩やかに地域移行していくと考えると、今ある団体にご協力を頂きながらいい方法がないかということも、現実的には有り得る。

また、提言の中にあるのは、例えば文化系の子もスポーツを楽しめたり、種目をまたいだり、専門性の高いものが好きならばそれを選んだり、レクリエーション的なものが好きならばそれを選んだり、とにかく幅広い受け皿をどれだけ皆さんに協力してもらって作ることができるか、そこを今から考えていく必要がある。

（委員）

子どもたちの中で、他の地域の大人や子どもたちとあまりコミュニケーションの取り方が上手ではない子たちが増えているし、外で遊ぶよりもゲーム機だとかに頭が向かっている子たちもいるので、選ぶことができるような機会があるのはいいと思う。

我々がスポーツに明け暮れた時代に比べると、世の中が変わってきているなと感じる。落ちこぼれてしまったり、行き場のないフラフラした子ができないように、学校でもある程度どの子がどこに休みの日に練習に行ってるか把握できたほうがいいのではないか。

（委員）

例えばハンドボールなど、スポーツ協会に加盟していない団体の競技についてはどうい

った受け皿でやっていくのか。

(事務局)

提言の内容では、学校で実施している部活動を全て引き継いでやっていくことは難しいと書いてある。平日については学校での部活動を維持し、休日については子どもたちと親御さん含めて家族で考えていただきながらみんなで楽しむようなことが、今後主流になっていくのではないかと考えている。

ただ、もう一つ気になるのは、提言の中では7年度以降のことも少し触れてあって、平日の移行についても書いてある。ただ、これは全く今読めないことで、何か言うのは時期尚早ではあるが、平日の部活は少なくとも学校で実施して、土日の使い方については、例えば2回あるうちの1回は自分で好きな種目を選んでやったり、趣味の域でスポーツに親しむなど、そういった方向性になるのではないかと考えている。

(委員)

ラジオ体操については、夏休み中は朝起きて子どもたちがY o u T u b e でラジオ体操を見ながらやっている。また、バスケットボールの選手が園に訪問して交流していることも非常に好評だと聞いているので、市制施行70周年記念としてだけでなく、継続的にふれあえる機会は今後も続けていただければ。

(事務局)

ホームチームサポーター事業があるので、そちらにも投げかけしながらどのようにできるのか探っていきたい。

以上